

活動報告

団体名	P3
活動名	南阿蘇村の段階的な地域コミュニティ再構築支援事業
活動期間	2018年1月～2018年12月
活動の成果	<p>災害は緊急期のその後に社会的課題があることに気づき、深めてきた活動でしたが、通して見えてきた社会課題は生活再建と貧困で、求められることは洗練されたソーシャルワーク。半ば強引に再建しても生活困窮に陥るリスクがあるなど課題も多々ある中、その方の生活に隠れる潜在的要員は何かを掴み、支援に繋ぐことが最短最良である。</p> <p>【被災者カルテ対象世帯数 813 世帯中】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A：再建完了：468 世帯(57.6%：295 増) ・B：完了見込み：223 世帯(27.4%：16 減) ・C：再建の意思を示し、具体的行動がある：91 世帯(11.2%：88 減) ・D：再建の意思はあるが、行動がない：31 世帯(3.8%：122 減) ・E：全く決まっていない、不明：0世帯(0%：133 減) <p>増減は活動開始時との比較。日弁連の津久井進先生が視察に来られた際、これこそ災害ケースマネジメントの実例で、これからの本流になる。取り組みは全国的に大変貴重な実践に基づく事例であり、意思と活動は全面的に応援すると言われました。</p> <p>「南阿蘇村の地域コミュニティ再生を考える座談会」は毎月開催で、夏祭り企画としてイベントも開催し好評でした。</p>
寄付者へのメッセージ	<p>この企画は現在災害支援現場では本流ではありません。しかし必ず直面し、被災された場合誰でも体験することになる支援格差や不具合に挑戦した企画です。申請主義である我が国の支援は高齢者や要支援者には難解な解釈が多く、支援があってもそこに結びつかない事例が多いのは、専門家的な支援員が圧倒的に少ないからです。行政にしても法曹にしても学識にしても正しく自分の状況を伝えないと正しく導いてもらえません。被災者は自分がどのような状況にあるのかわからない方も多くいらっしゃいます。状況を被災者から引き出し、読み解き専門機関に伝えることで迅速な支援に結びつきます。</p> <p>今回我々は信念を持ってそこに挑戦しました。</p> <p>「自分の大切な人が被災したとき、あなたならどうする」</p> <p>時に息子のように、親のように親身になって聞き取りした結果が数字につながっていますが、この課題の困難なところは単年度では課題解決とならないところで、中長期的な取り組みが必要とされます。今回の企画にご賛同くださりありがとうございました。まだ支援は継続中ですので、このような活動にも注目していただけると幸いです。</p>

(活動のようす)

